

人が集まる場所に、
価値は生まれる

日華化学株式会社

代表取締役社長

江守 康昌 氏

トップの

The president's real face

素顔

vol. 15



Profile

昭和37年2月、福井市生まれ。平成元年に同社入社。ニッカU.S.A., INC 上
席副社長、平成9年6月に同社代表取
締役専務、平成13年社長に就任。
福井商工会議所副会頭のほか、(一社)
福井県発明協会 会長、福井県経営者
協会 副会長、福井ロータリークラブ会
長、福井県ハンドボール協会 会長など
公職を務める。

DATA

創 業：昭和16年
電 話：0776-24-0213

本社所在地：福井市文京4-23-1
従業員：1,576名（連結）

普段、垣間見ることが出来ない福井商
工会議所の議員の素顔を探る「トップ
の素顔」。今回は日華化学株式会社の
江守康昌氏にお話を伺いました。

「原点にある、家族との対話の時間」

一日の始まりは、社内にある創業者
の執務室、創業記念館の仏壇と神棚へ
祖父と父に手を合わせることから始
まる。「ここで気持ちを整えるんです」
と語るその習慣は、経営者として原点
に立ち返る大切な時間でもある。

昭和37年、日華化学の創業家に生ま
れる。幼い頃は海外出張の多かった父
に代わり、創業者である祖父と過ごす
時間が長かった。祖父は昭和23年に発
生した福井震災という大きな苦難を乗
り越え、会社と家族を支えてきた人物
である。その姿から、「感謝」と「質
実剛健」という価値観を自然と学んで
いった。

当時の自宅は社員の寮も兼ねてお
り、社員たちも家族のように生活して
いた。さらに海外からの来客も多く、
家の中では常に会話が交わされてい
たという。「人が集まるのが当たり前
の環境でした」。そうした暮らし中で、
人と向き合うことの大切さが育まれて
いった。

「毎日怒られていた」わんぱく小僧

少年時代は「かなりのやんちゃでし
た」と振り返る。忘れ物や遅刻も多く、
宿題もやらない、道草をする。苦手だっ
た図画工作では写生の宿題に気が乗ら
ず、友人の作品を真似て提出もすぐに
見抜かれて叱られた。「どうして分か
るんだらうと思いましたよ」と笑う。

一方で、体を動かすことには夢中
だった。小学生の頃からソフトボ
ールに親しみ、社員寮の若手社員に教わり
ながら、兄とのキャッチボールで腕を
磨いた。中学では野球部で3番キャッ
チャーとして活躍し、学校史上初とな
る県大会優勝を達成。高校ではハンド
ボールに転向し、エースポジションと
してチームをけん引、ここでも学校初



インターハイ出場を果たした高志高校ハンドボール部。
右端で優勝旗を持つのが江守氏

のインターハイ出場を果たした。「上
手さというより、負けず嫌いが功を奏
したんです」。その言葉に、現在の粘
り強さの原点が重なる。

幼い頃から海外の来客に触れる機会
が多く、英語にも自然と親しんだ。中
学時代には教科書を暗記するほど学
び、人と関わることへの前向きな姿勢
が育まれていった。

人とのご縁を広げた大学時代

慶應義塾大学理工学部に進学後は、
塾講師や飛行機清掃などのアルバイト
を転々とする一方で、仲間と同好会を
立ち上げ、大学の枠を超えた交流の場
をつくった。この時に作った多くの出
会い、つながりは現在も続いており、
ビジネスになることもあるという。

学業では油化学を専攻し、環境問題
に向き合った研究に取り組んだ。琵琶
湖の富栄養化の要因であるリンを含ま
ない洗剤開発をテーマに、環境と機能
の両立を追求。この経験が、同社が「環
境」を重視する原点にもなっている。

大学卒業後は三菱化成株式会社（現三
菱ケミカル株式会社）に入社、営業に
配属された。当時はレコードからCD
へと移行する過渡期であり、CD素材
の販売を担当。急成長する市場の中で、

月20億円規模のビジネスに成長し、社
内表彰を受けたこともある。徹底的に
社会人の基本、営業スキルを叩き込ま
れた当時の上司は元三菱化学社長でも
あり、現在でも業界や経営について幅
広く相談できる関係が続いている。

受け継ぎ、進化させる経営のかたち

日華化学の経営の根幹にあるのが
「大家族主義」である。創業者は、会
社が危機に陥った際、家族同然に過ご
してきた社員の半数を解雇せざるを得
なかつた経験から、「二度と同じ思い
は繰り返さない」と決意し、この理念
は、社員を家族のように大切にする考
え方として受け継がれてきた。社長就
任以降もリーマンショックやコロナ禍
に直面したが、解雇はせず「皆でおか
ゆをすすりながら」乗り越えた。現在
はこれを進化させ、家族なら「働かざ
る者食うべからず」という厳しさも持
ちながら、社員一人ひとりと向き合い、
挑戦と成長を後押しする仕組みを整え
続けている。

社内では定期的に懇親会を開催し、
バーベキューでは自ら肉を焼き、自作
スパイスのカレーを振る舞う。肉の焼
き方は同じく肉が好きだった父譲り
で、シンプルながらも「焼き方や炭に

もこだわりがある」。社員と食事を囲
み語り合う時間が、自身にとってのリ
フレッシュにもなっているという。

人が成長する会社であり続けたい

今年創立85周年を迎える同社が見据
えるのは、100周年、そしてその先
である。「社員がワクワクして働ける
会社になりたい」という想いは、社長就
任以来変わらない。人が集い、対話が
新たな価値が生まれ、それが企業の
成長につながる。8年前に開所した「N
I C C A イノベーションセンター」は、
その考えを体現する拠点であり、多様
な企業や人が交わることで新たな発想
が生まれている。

人とのご縁を大切にしてきた経験が
現在の経営に息づく。「社員の成長が
会社の成長でありたい」という言葉の
通り、同社はこれからも人を起点に成
長を続けていく。



自ら選び仕入れた分厚い肉を振る舞う江守社長（前列中央）。社員との距離を縮めるひととき。